

II 大会期における取組

大会史上初の1年延期を経て、2021年夏の大会を迎えるに当たり、大会直前期から大会開催期間中、さらには大会後にかけて実施した、藤沢市としての主体的な取組、及び成果・レガシーなどに関する記録です。

1 気運醸成及びおもてなしの取組

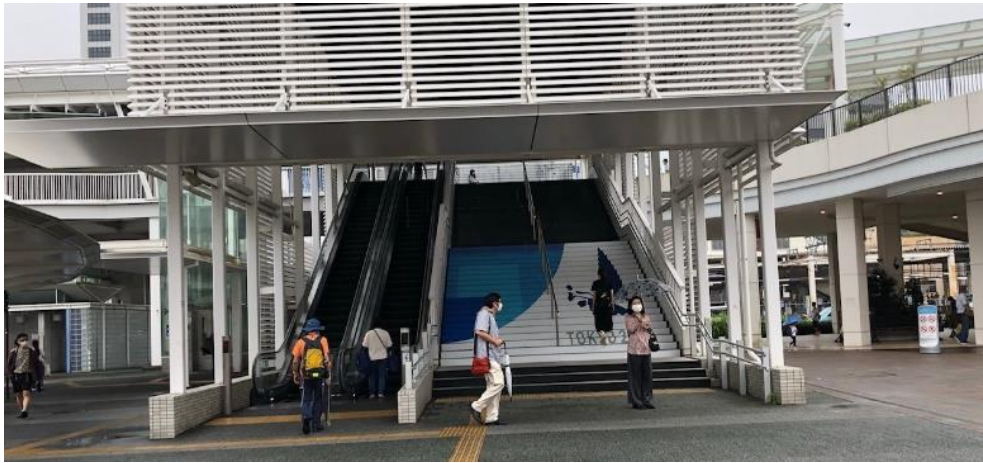
新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、様々な取組が中止及び縮小を余儀なくされ、選手関係者らとの交流やおもてなしについても、直接的な取組は難しい状況でありましたが、市民の皆様や支援委員会等の関係団体と連携して創意工夫を図り、様々な形で気運の盛り上げと選手関係者へのおもてなしを実現しました。

(1) シティドレッシング（都市装飾）

シティドレッシングは、開催都市東京都と、競技会場の所在する自治体が統一のデザインの横断幕やフラッグ等により各競技会場周辺や街なかを装飾し、大会気運の盛り上げと一体感の醸成を図る取組で、組織委員会及び神奈川県と連携し、役割分担を行うなかで、本大会のオフィシャルデザインの横断幕やフラッグ等を競技会場周辺や主要駅周辺等に施し、地元藤沢で開催されるオリンピック・パラリンピック競技大会の祝祭感を演出するとともに、大会に向けた気運の盛り上げを図りました。



藤沢駅周辺（藤沢駅～市役所）／2021年4月中旬～9月上旬



辻堂駅周辺（北口～神台公園）／2021年5月中旬～9月上旬



湘南台駅（地下通路）／2021年5月中旬～9月上旬



善行駅周辺（東口・西口）／2021年5月中旬～9月上旬



江の島周辺／2021年6月上旬～8月中旬



小田急電鉄



江ノ島電鉄



湘南モノレール

江の島3駅／2021年6月下旬～8月上旬



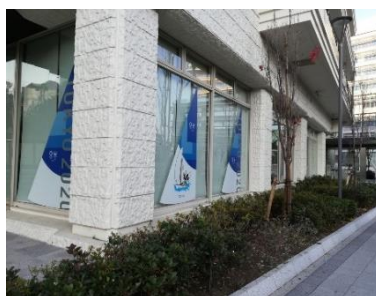
観光センター・観光案内所／2020年3月～2021年8月上旬



市役所本庁舎／2020年1月～2021年9月上旬



市役所分庁舎／2021年1月～9月上旬



秩父宮記念体育館／2021年1月～9月上旬

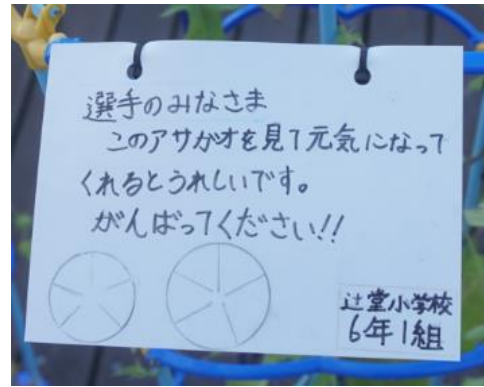
(2) フラワーレーンプロジェクト

選手や関係者へのおもてなしの取組として、競技会場内にアサガオを配置するフラワーレーンプロジェクトを実施しました。実施に当たっては、アサガオの種まきから生育、応援メッセージの寄せ書きなどを市立小学校3校（辻堂小・富士見台小・大鋸小）の児童の皆様にご協力いただきました。

大会期間中、競技会場内の各所に飾られた満開に咲き誇る360鉢のアサガオは、競技会場を鮮やかに彩りました。「固い絆」、「あふれる喜び」などに代表されるアサガオの花言葉のとおり、地元の子どもたちから選手関係者への心のこもったおもてなしとなりました。

また、神奈川県により、競技会場外の江の島弁天橋入口にもアサガオが設置され、このアサガオが元気な姿でお出迎えができるようにと、シティキャストフジサワの有志が集まり、毎日の水やり活動を行いました。





左のプレートは、2019年6月に村岡小学校で行われたREADY STEADY TOKYO - セーリング〔オリンピックテストイベント〕用の種まきイベントとベニューツアー（会場見学）時の写真が掲載されており、セーリング競技会場内に日本語版と英語版で掲示されました。

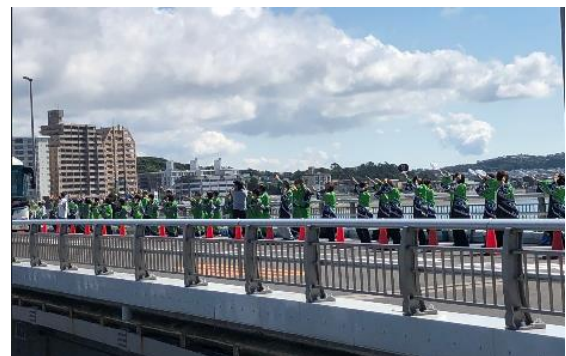
東京2020大会終了後、フラワーレーンプロジェクトにご参加いただいた辻堂小・富士見台小・大鋸小の児童の皆様に、組織委員会から感謝状とストラップがお礼に贈られました。また、当該3校には、IOC、組織委員会など大会関係者からお礼の寄せ書きがしたためられた「のぼり旗」も贈られました。



(3) 江の島ヨット音頭・東京五輪音頭 - 2020 - でおもてなし

セーリング競技の公式練習のため、セーリング選手村（大磯）や近隣の宿泊施設からバス等で競技会場入りする選手関係者に向けて、2021年7月22日（木・祝）の午前、地元の江の島振興連絡協議会の皆様を始め、江の島さざ波会・夕波会、藤沢商工会議所女性会、藤沢市民踊協会、市内民踊団体、小学生・中学生、市民有志など総勢約200人が、江の島大橋及び江の島北緑地広場で、「江の島ヨット音頭」と「東京五輪音頭 - 2020 - 」の踊りを披露し、選手関係者をお迎えしました。

この取組は、1964年東京オリンピックの際に、盛り上げのために作られ、同大会でも披露された「江の島ヨット音頭」を、今大会でも再び披露し、選手関係者へ歓迎の気持ちを伝えたいとの地元の皆様の強い思いから実現しました。この日のために練習を積み重ね、セーリングワールドカップシリーズや、藤沢市民まつり等で披露するなど、本大会に向けて準備をしてきました。参加者の皆様は、これまでの練習の成果を発揮し見事な踊りを披露され、地元藤沢市を挙げた歓迎ムードいっぱいのおもてなしとなりました。





(4) シティキャストフジサワによる選手関係者のお出迎え

セーリング競技開催期間中、競技会場の江の島ヨットハーバー入口で、シティキャストフジサワが手旗や横断幕を掲げてお出迎えし、各国のセーリング競技選手や大会関係者を激励する活動を実施しました。活動に当たっては、参加対象者を県内居住者に限定し、直行直帰を徹底するなど、万全な感染症対策を講じた上で実施しました。



(5) シティキャストフジサワによるSNSを活用した動画配信

新型コロナウイルスの感染拡大による行動制限の折、シティキャストフジサワの活動として、セーリング競技開催期間中にSNSを使った動画配信を行い、大会の盛り上げを行うとともに、藤沢市の魅力を発信しました。



(6) 「セーリング2020ガイド」によるセーリング競技のL I V E 解説

東京2020大会セーリング競技は、藤沢市役所本庁舎（本市主催）と片瀬東浜海水浴場（神奈川県主催）で、東京2020ライブサイトを開催し、ライブでの競技放映と解説を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、いずれの東京2020ライブサイトも中止となりました。

そこで、ライブサイト中止に伴う代替えの取組として、市民の皆様がセーリング競技を分かりやすく楽しむことができる環境をつくるため、インターネットで中継されるセーリング競技のライブ映像に合わせ、オリンピックとトップセーラーが、SNS（ツイッター）で競技のルールやレースの様態を解説、発信する企画「セーリング2020ガイド」を神奈川県と共同で実施しました。

配信期間 2021年7月25日（日）～8月4日（水）

フォロワー数 1,347人（8月4日全日程終了時点）

ツイート数 1,032回（期間中合計）

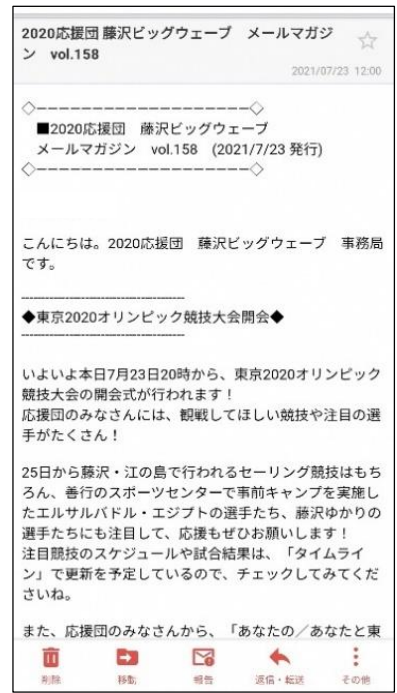
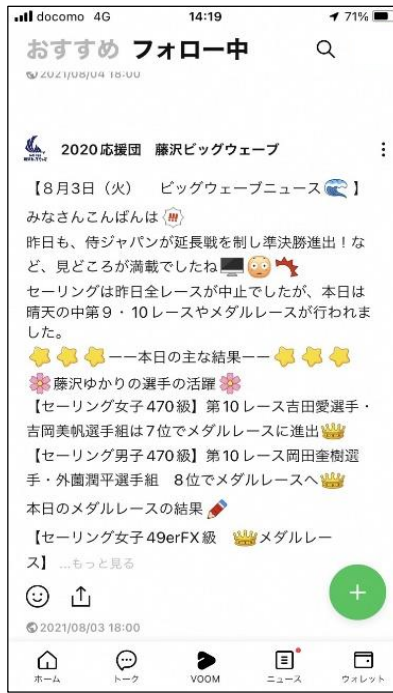
ツイートインプレッション数 1,618,447回（期間中合計）

※インプレッション数とは、ツイートした内容が他のユーザーに表示された回数



(7) 2020応援団 藤沢ビッグウェーブによる大会情報の随時発信

大会期間中、藤沢ビッグウェーブの団員約18,000人に対し、セーリング競技のレース結果や、本市ゆかりの選手の競技出場結果などの新着情報をSNS（LINE）やメールマガジンで随時配信し、大会の盛り上げを図りました。



(8) アンセム オンザビッグウェーブ～国歌を通じて国際交流～

東京2020大会の開催を直前に控え、藤沢での歓迎ムードを高めようと、2021年5月22日（土）、表彰式などでも流れる「国歌」に着目したオンラインイベントを藤沢ビッグウェーブの取組の一環として実施しました。国歌にまつわる様々なエピソードの紹介や解説を始め、事前キャンプの協定締結を契機に本市がホストタウンとなる3か国の国歌を海上自衛隊が生演奏するなどのステージパフォーマンスを行いました。



(9) モザイクアート制作「FUJISAWA2020“ピースでつながるWA”」

シティキャストフジサワの有志が、東京2020大会に向けて藤沢市から盛り上げようと自ら企画し、2020枚のピース写真を集めて藤の花とセーリングのモザイクアートを制作する「FUJISAWA2020“ピースでつながるWA”」を実施しました。多くの市民の皆様にご協力いただき、目標数の2020枚を上回る2087枚のピース写真が集まり、これをもとに制作したモザイクアート作品を市役所本庁舎内に展示して、大会に向けた盛り上げを図りました。

また、本作品は、選手関係者へのおもてなしの一環として、セーリング選手村（大磯）でも展示されました。



(10) スペイン語創作かるたの制作

シティキャストフジサワの有志の発意により、エルサルバドル共和国の選手団が藤沢市で事前キャンプを実施することを記念して、同国公用語であるスペイン語を使った2種類のかるたを制作し、エルサルバドル共和国の選手関係者に記念品として贈呈しました。

エルサルバドル選手団に藤沢や日本の魅力を知ってもらうための「ふじエル交流かるた」と、スペイン語を楽しみながら学ぶための「スペイン語学習かるた」を制作し、市民の皆様にも楽しんでいただけるよう、データを市のホームページで公開して、大会に向けた盛り上げと、同国との交流を図りました。



Sea Candle, es el faro de la isla Enoshima.
(シー キャンドル エス エル ファーロ デラ イスラ エノシマ)

Su luz y colores iluminan en Navidad.
(スルスイ コロレス イルミナン エン ナビダ)

「Sea Candle (シーキャンドル)」
は江の島にある灯台です。
クリスマスシーズンには、
光と色のイルミネーションで輝きます。

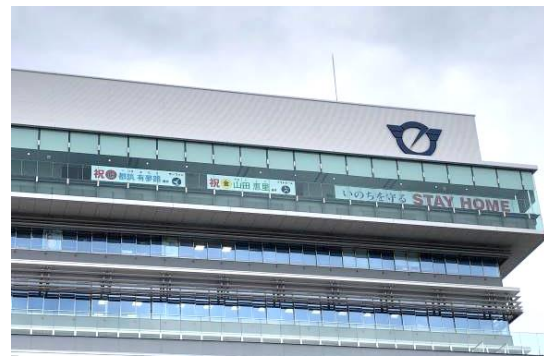
読み	ビエンベニードス
スペイン語	Bienvenidos
にほん語	ようこそ

エルサルバドル選手団に贈呈したスペイン語創作かるた

(11) 藤沢市ゆかりの選手の応援

本市ゆかりの選手の応援や、メダルを獲得した選手らの栄誉を称えるため、市役所本庁舎や選手ゆかりの地域の市民センター・公民館では、大会直前から大会後にかけて、横断幕等の掲出を行ったほか、地元地区では、街なかへのポスター等の掲出や広報紙の発行等で選手の活躍を称えるなど、ゆかりの選手を応援する取組が行われました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、人流抑制を呼びかけるなかでの大会となったため、多くの人を集めるライブサイトや、ご当地選手を応援するパブリックビューイングを実施することは叶いませんでしたが、横断幕やポスター、チラシ等で本市ゆかりの選手たちを応援し、メダル獲得を祝福するなどの盛り上げを行いました。



市役所本庁舎正面玄関・9階で掲示



市役所本庁舎1階プロムナードで本市ゆかりの選手の活躍を称える掲示

【 ソフトボール競技で金メダルを獲得！
山田 恵里 選手のご当地 御所見地区での応援・祝福の様子 】



【 サーフィン競技女子で銅メダルを獲得！
都筑 有夢路 選手のご当地 鵜沼地区での応援・祝福の様子 】



2 東京2020聖火リレーに関する取組

(1) 東京2020オリンピック聖火リレー

「Hope Lights Our Way/希望の道を、つなごう。」のコンセプトのもと実施されたオリンピック聖火リレーは、大会の1年延期とあわせ、当初予定の1年後の2021年3月25日(木)に福島県を出発し、全国42の道府県を巡った後、43番目として6月28日(月)に神奈川県に到着しました。

神奈川県内では、同月30日(水)までの3日間で開催されましたが、新型コロナウイルスの影響により公道走行が中止となり、各日の最終ゴール地点となるセレブレーション会場で無観客(関係者のみ)により点火セレモニーが代替え実施されました。

本市では、6月28日(月)に予定されていた公道走行〔2区間(江の島北緑地広場～西浜歩道橋付近 / 湘南高校前信号～辻堂神台公園)〕が中止となり、同日の最終ゴール地点を予定していた辻堂神台公園で、聖火ランナーにより聖火を受け渡す「トーチキス」が実施され、当日の最終聖火ランナーのつるの剛士氏(ふじさわ観光親善大使)により、聖火皿へ点火されました。

【オリンピック聖火リレー点火セレモニーの概要】

日時 2021年6月28日(月) 13時～18時

会場 辻堂神台公園

参加者 90人(6月28日に公道走行を予定していた箱根町、伊勢原市、小田原市、大磯町、平塚市、茅ヶ崎市及び本市のランナー)





2021年6月28日（月）に聖火リレーが行われる予定であった藤沢市内のルート（2区間）

（2）東京2020パラリンピック聖火フェスティバル

東京2020パラリンピック聖火リレーは、オリンピックからパラリンピックへの移行期間である8月中旬に行われました。パラリンピック聖火は、パラリンピック発祥の地イギリスのストーク・マンデビルで採火された火と、全都道府県で採火された火を開催都市の東京都で一つに集火し、パラリンピック聖火としました。

神奈川県内では、パラリンピック競技が開催されないことから、パラリンピック聖火リレーは実施されませんでした。しかし、「聖火フェスティバル」として、神奈川県と、県内全33市町村ごとに生み出した火を一つに集め、「ともに生きる社会かながわの火」として、東京都へと送り出しました。藤沢市では、採火者として、パラスポーツの普及啓発にご尽力いただいている、パラリンピックメダリストで（公財）藤沢市みらい創造財団非常勤職員の石井雅史氏と、藤沢市障がい者スポーツ連絡協議会会長の種田多化子氏の両氏に「平和の灯」から採火していただき、「藤沢の火」として、神奈川県が集火・出立式へ送る予定でしたが、大雨・洪水警報の発令により、東京オリンピック・パラリンピック開催準備室（以下、「開催準備室」）の職員が採火を実施し、「藤沢の火」として、神奈川県へ送りました。

【パラリンピック聖火フェスティバル「藤沢の火」採火式の概要】

日時 2021年8月15日（日） 10時～10時30分
会場 藤沢市役所分庁舎 平和の灯モニュメント前



神奈川県に送られた
「藤沢の火」



「平和の灯」から採火された



神奈川県の
集火・出立式



前列右側が「藤沢の火」

(3) 聖火リレーの展示

聖火リレーに関しては、聖火リレーの展示を行い、盛り上げを図りました。

① 「聖火リレーが藤沢市にやってくる」

展示日程 2021年6月22日（火）～24日（木）

展示場所 藤沢市役所 本庁舎1階 プロムナード

② 大会公式スポンサー（NTT）との連携による展示

展示日程 2021年6月25日（金）～27日（日）

展示場所 藤沢市観光センター

③ ふじさわ観光親善大使つるの剛士氏の聖火リレーの展示

展示日程 2021年7月20日（火）～8月31日（火）

展示場所 藤沢市役所 本庁舎5階 開催準備室内

④ 大会後の展示

展示日程 2021年11月1日（月）～2022年3月25日（金）

展示場所 藤沢市役所 本庁舎5階 開催準備室内



3 事前キャンプの受入れ

(1) 誘致からホストタウン登録まで

本市では、2013年9月、I O C総会において、2020年夏季大会の開催都市が東京に決定したことを受け、神奈川県や支援委員会等と連携し、各国のオリンピック委員会（N O C）やパラリンピック委員会（N P C）に働きかけるなど、事前キャンプ誘致の活動を進めてきました。

誘致活動の結果、ポルトガル、エルサルバドル及びエジプトの3か国と、県立スポーツセンターを拠点に事前キャンプを実施することについて、各国N O C・N P C等と合意に至り、各国と本市及び神奈川県との間で事前キャンプ実施に関する協定締結に至りました。

また、本市は、これら3か国の「ホストタウン」に登録されるとともに、ポルトガルパラリンピック選手団の受入れは、「共生社会ホストタウン」にも登録され、本大会が1年間延期となるなかでも、ホストタウンの国々との交流を継続し、2021年7月から8月にかけて、3か国の事前キャンプが予定どおり実施されました。

- ※ 「ホストタウン」（内閣官房所管）とは、自治体と東京2020大会に参加する国・地域の住民等が、スポーツ・文化などを通じて交流し、地域の活性化に生かしていく取組です。
- ※ 「共生社会ホストタウン」（内閣官房所管）とは、パラリンピアンとの交流を契機として心のバリアフリーなどの推進を目指す取組です。



ポルトガル事前キャンプ協定締結式
(神奈川県庁)



エルサルバドル事前キャンプ協定締結式
(藤沢市役所)



- ※ 「beyond（ビヨンド）2020プログラム」（内閣官房所管）とは、2020年以降を見据え、日本文化の魅力を発信するとともに、共生社会、国際化につながるレガシーを創出することを目的としたホストタウン、文化イベントなどの様々な取組です。

(2) 事前キャンプの概要

国名	実施時期	実施競技 / 受入れ人数	施設名	ホストタウン登録 / 事前キャンプ実施協定
エジプト (オリンピック)	2021年 7月8日 ～17日 (10日間)	フェンシング 受入れ人数：計19人 (選手14人・関係者5人)	県立 スポーツ センター	<ul style="list-style-type: none"> ■ホストタウン登録 2020年3月31日 ■事前キャンプ協定締結 2020年11月25日
エルサルバドル (オリンピック)	2021年 7月13日 ～23日 (11日間)	陸上競技、ボクシング <2競技> 受入れ人数：計10人 (選手2人・関係者8人)		<ul style="list-style-type: none"> ■ホストタウン登録 2019年12月27日 ■事前キャンプ協定締結 2020年1月28日
ポルトガル (パラオリンピック)	2021年 8月10日 ～24日 (15日間)	競泳、陸上競技、自転車競技、 ボッチャ、バドミントン、 柔道 <6競技> 受入れ人数：計69人 (選手30人・関係者39人)		<ul style="list-style-type: none"> ■ホストタウン登録 2019年10月31日 ■共生社会ホストタウン登録 2019年12月17日 ■事前キャンプ協定締結 2019年9月9日

(3) 事前キャンプ受入れ準備

新型コロナウイルスの影響で大会の延期が決定してからも、本大会の開催に向けて、本市がホストタウンとなる国々とは、互いに友好を深めるためのメッセージ動画を制作するなど、動画を活用した交流やオンライン交流等の取組を進めてきました。

一方で、選手団の受入れに向けては、神奈川県とともに、場面ごとの感染対策を講じるために選手側、受入れ側の双方が遵守すべき事項を始め、感染疑い者発生時等の対応を定めた「受入れマニュアル」を作成するなど、関係機関と連携し、万全な受入れ体制を構築しました。



県立スポーツセンター



各国を歓迎する装飾

(4) 事前キャンプ期間中の対応

事前キャンプの実施期間中は、徹底した行動管理のもとで、選手等への健康管理を行うとともに、毎日PCR検査を実施したほか、感染予防のための環境を整備するなど、安全安心を確保し受入れ対応を図りました。

また、選手団の行動が制限されるなかで、市民の皆様との直接的な交流は難しい状況でしたが、本市がホストタウンとなる3か国には、動画により日本文化を紹介しながら江の島観光を楽しんでいただくバーチャルツアーを実施したほか、地元藤沢で活躍される皆様にご出演いただいた歓迎メッセージ動画を放映するなど、可能な限りのおもてなしや交流を実施し、各国の選手団からは大変好評をいただきました。なかでも、JAさがみに協力をいただき、ポルトガル選手団へのおもてなしとして実施した藤沢産果物の提供は、パラリンピック開会式の選手団入場時のNHKテレビでエピソードとして紹介され、藤沢市が全国に発信される貴重な機会となりました。

【エジプト】



【エルサルバドル】



【ポルトガル】



各国選手団が到着



各国選手団練習の様子



各国選手団へのおもてなし



各国選手団との交流



各国選手団との交流



各国選手団をお見送り

(5) ホストタウン交流の取組

本市がホストタウンとなる国々とは、これまで、ともに友好を深めるための応援メッセージ動画を制作するなど、動画を活用した交流を始め、市内医療従事者へのコーヒーの寄贈や、事前キャンプ実施国の現地と結んで行ったオンライン交流等、様々な取組を通じて、国際理解や多文化共生を推進し、障がい者理解を深めるなど、共生社会実現に向けた意識の醸成が図られました。

大会終了後も、事前キャンプ実施を契機としたホストタウンの取組は、これまでに培った各国との関係性を生かし、大使館職員や関係者の協力のもと、各国の紹介や文化イベントを実施するなど、今後も継続的に国際交流の取組を進めていきます。



ポルトガル料理教室



ポルトガル パラリンピック委員会
会長からのメッセージ動画公開



エルサルバドル オリンピック出場
有力選手からのメッセージ動画公開



市民の皆様にご出演いただいた歓迎メッセージ動画



エルサルバドル大使館から
医療従事者へのコーヒー寄贈

エルサルバドルで藤沢市の魅力を
紹介する動画を公開

エルサルバドル オリンピック選手団
ユニフォーム完成披露会動画公開



市内中学生とポルトガルのパラリンピック
出場候補選手らがオンラインにより交流



御所見公民館との連携事業
「エルサルバドルの文化を知ろう！」

4 安全安心の取組

(1) 危機管理に関する取組（防災安全部）

本大会の開催に当たり、テロや津波、その他大規模災害の発生時において、円滑かつ的確な対応が図れるよう、組織委員会や神奈川県、警察等と連携し、情報を共有しながら取組を進めました。

本市の危機管理対応に当たっては、庁内各部局と横断的に連携し、事前準備の期間、大会直前期、そして大会開催期と、それぞれのフェーズにあわせて段階的に警戒を強化するとともに、市警戒本部を中心とする危機管理体制を構築し、不測の事態に備えました。また、セーリング競技開催期間中には、競技会場周辺の警戒や情報収集を行い、危機管理対応を図りました。



セーリング競技開催期間中の競技会場周辺における警戒活動

(2) 消防・救急に関する取組（消防局）

オリンピック開催決定を受け、安全安心な大会運営を目指し、消防局では、2019年4月から組織委員会警備局へ職員1人を派遣し、組織委員会との連携を図りつつ、消防車両や資機材の計画的な整備、県内消防本部による応援体制の構築、関係機関等と連携した訓練を継続して実施するとともに、セーリング競技会場や市内の宿泊施設、危険物施設などの大会関連施設に対し防火査察を行いました。

大会期間中は、テロによる特殊災害や大規模災害等による多数傷病者発生に備え、競技会場内に専用の救急車3台の配備を始め、江の島周辺はもとより市内全域の警備を強化し、万全な警戒体制でオリンピック警備を実施しました。



競技会場専用救急車



片瀬漁港待機状況



県内消防本部応援状況



江の島周辺を警備する消防団員

(3) 医療・感染症等に関する取組（健康医療部・保健所・市民病院）

競技会場内の医療対応においては、セーリング競技の開催期間中、江の島会場の医療責任者として市民病院から医師を派遣、さらには、競技会場内の医務室に藤沢市医師会から医師と看護師を派遣していただくなど、関係機関と調整を図り、大会運営に協力しました。

また、新型コロナウイルス感染症対策については、神奈川県が主体となり、組織委員会や関係自治体、医療機関等で構成する「神奈川県新型コロナウイルス感染症対策に関する東京2020大会協議会」が設置され、県内の自治体や医療機関において、「神奈川モデル」に基づいた統一的な運用となるよう対応が図られました。

本市においても、地域医療への影響が最小限となるよう保健所や医療機関と連携するなかで、安全安心の大会運営に関し、地元自治体として支援を行いました。

(4) 競技会場周辺の交通規制にかかる対応

セーリング競技の開催に当たっては、2021年7月13日（火）から8月5日（木）までの24日間、江の島大橋から島内の臨港道路において、終日、一般の自動車・バイクを対象とした交通規制が行われました。規制を実施する組織委員会と連携し、江の島の住民や事業者の皆様に対する説明会の開催、規制チラシの配布、さらには、組織委員会が発行する「通行確認証」の手続きへの支援など、日常生活に支障が生じないよう対応を図りました。

※大会開催による交通規制は、江の島大橋・島内のほか、小田急電鉄片瀬江ノ島駅前とスバナ通りにおいて、時間を区切り実施される予定でしたが、セーリング競技が無観客で開催されることになったことから、これら区間での交通規制は、実施されませんでした。



江の島入口交差点における交通規制の様子

東京2020大会 江の島ヨットハーバー
混雑緩和へのお願い

江の島周辺では下記期間中に車両通行規制を行うため混雑が予想されます。
混雑緩和にご協力をお願いします。
※江の島周辺へ観光の際は、公共交通機関をご利用ください。

セーリング / 江の島ヨットハーバー
7/13(火) → 8/5(木)

7/13 ※ 江の島大橋・島内終日車両通行規制 8/5 ※ 混雑期間(7/25(日)～8/4(水))

ご協力いただきたいこと

大会開催中のため、江の島周辺は混雑が予想されます。混雑緩和のため、公共交通機関やタクシーをご利用ください。また、大会期間中は、江の島周辺は混雑が予想されます。混雑緩和のため、公共交通機関やタクシーをご利用ください。

行動制限の緩和 交通手段の確保 経路変更 テレワーク 計画的な帰省計画 電話予約の受付

江の島周辺の規制内容や大会ルートは画面をご覧ください

5 大会後の取組

本市では、大会を契機としたレガシーづくりや、大会開催に当たりご尽力いただいた藤沢ビッグウェーブの皆様、シティキャストフジサワ、また、大会に出場され活躍された本市ゆかりのアスリートの皆様へ感謝の意を込めて、大会後も様々な取組を実施しました。

(1) 都筑有夢路選手 銅メダル獲得 市長表敬訪問

サーフィン競技女子で、荒波の難しいコンディションを乗り越え見事銅メダルを獲得した、藤沢市出身の都筑有夢路選手が、藤沢市サーフィン協会佐賀会長（藤沢市議会議長）とともに、鈴木市長へ銅メダル獲得の報告のため、藤沢市役所に来庁されました。

日 時 2021年8月12日（木） 10時～10時30分



(2) 都筑有夢路選手への藤沢市市民栄誉賞贈呈式

サーフィン競技女子で銅メダルを獲得し、広く市民の皆様にも明るい希望と誇りを与えていただいた都筑選手に、市民栄誉賞を贈呈しました。贈呈式は、都筑選手の母校である湘洋中学校で行われ、新型コロナウイルス感染対策のため、都筑選手はオンラインによりご出席いただきました。受賞の様子は、同校全クラスに映像をつなげて行われ、多くの後輩たちが都筑選手の受賞を祝福しました。

日 時 2021年9月7日（火） 11時45分～12時15分

場 所 藤沢市立湘洋中学校 体育館



(3) 山田恵里選手への藤沢市市民栄誉賞特別賞贈呈式・ゴールドポスト設置全国第1号

ソフトボール競技で日本代表チームの主将を務め、2008年の北京大会に続き、13年ぶり2度目となる金メダルを獲得された山田恵里選手に、その栄誉を称え、藤沢市市民栄誉賞特別賞の贈呈を行いました。贈呈式は、山田選手の母校である御所見中学校の体育館で行われ、式典後は、各クラスを巡回し、後輩となる多くの在校生から祝福を受けました。

また、同日、内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局が日本郵便株式会社と協力して推進している「ゴールドポストプロジェクト」の全国第1号として、山田選手の功績を称えた「ゴールドポスト」を、山田選手の地元である御所見郵便局に設置しました。当日は、母親への感謝の思いをしたためた手紙を山田選手ご自身が投函し、ゴールドポストへの最初の投函者となりました。

【藤沢市市民栄誉賞特別賞贈呈式】

日 時 2021年9月24日（金） 11時～11時30分
場 所 藤沢市立御所見中学校 体育館



【ゴールドポスト設置お披露目】

日 時 2021年9月24日（金） 12時～12時30分
場 所 御所見郵便局前ポスト

(4) 木村朱里選手が大会出場の結果を市長へ報告

本市職員で、ボッチャ競技BC4ペアに出場し、8位入賞した木村朱里選手が、市長へ出場結果の報告を行いました。

初出場となったパラリンピックの大会の様子や試合出場の感想、今後の大会予定や目標などを市長ら市幹部に報告しました。

日 時 2021年9月21日（火） 17時15分～17時45分



(5) ピカピカプロジェクト～1964年聖火台&東京2020セーリングモニュメント～

1964年大会に続き、2021年夏に開催された東京2020大会を終えて、江の島弁天橋のもとに設置されていた今大会の記念モニュメントが、設置者の神奈川県により、競技会場となった江の島ヨットハーバー内の1964年東京大会の聖火台横に移設され、これを記念する式典の開催に先立ち、本市でオリンピックが2度開催された証として並び建つ両大会の記念モニュメントを、きれいな姿で後世に引き継いでいけるよう、「まちの彫刻ピカピカプロジェクト」の一環として清掃作業を行いました。

日 時 2021年11月27日（土） 9時～10時30分
場 所 江の島ヨットハーバー
参 加 者 シティキャストフジサワ10人、鈴木市長、佐賀議長ほか
主 催 開催準備室／文化芸術課



市内に所在するパブリックアートの調査・維持などを進める「まちの彫刻ピカピカプロジェクト」の一環として実施



清掃作業終了後、神奈川県主催でモニュメント移設記念式典を開催
藤沢市からは、鈴木市長、佐賀市議会議員、湯浅江の島振興連絡協議会・観光協会会長、
増田商工会議所会頭、林体育協会会長らが出席

(6) 藤沢アスリート報告会 ～Tokyo2020・たくさんのARIGATOを届けよう！～

コロナ禍のなか、世界の強豪を相手に奮闘する選手たちの姿は、たくさんの市民の皆様
に勇気と感動を与えてくれました。大会に出場され、活躍された本市ゆかりの選手の皆様
に感謝の意を伝えるため、オンライン配信によるライブイベントを実施しました。

- 日 時 2021年11月27日（土） 13時～14時30分
会 場 藤沢市役所本庁舎サンセット広場 特設会場
開催方法 オンラインによりライブで配信
出 演 吉田 愛 選手／吉岡 美帆 選手（セーリング女子470級・7位入賞）
山田 恵里 選手（ソフトボール・金メダル獲得）
司 会 宮川 浩子 氏（フリーアナウンサー）
つるの 剛士 氏（ふじさわ観光親善大使）
内 容 本市ゆかりの選手 メッセージ動画出演
視聴者参加型企画 ほか
観 覧 者 藤沢ビッグウェーブの皆様ら70人がイベント会場内で観覧
視 聴 者 ライブ配信視聴者 約1,000人
〔アーカイブ映像をオンラインで公開（2022年3月末日まで）〕

**(7) シティキャストフジサワ サンクスイベント**

約2年半の長きにわたり、多くの貢献をいただいたシティキャストフジサワの皆様へ感
謝の意を伝えるとともに、これまでの歩みを振り返る「サンクスイベント」を実施しまし
た。このほか、シティキャスト有志の発意による様々な企画の発表があり、シティキャス
ト同士で仲間を募ったり、交流を深めたりという貴重な機会となりました。

- 日 時 2021年12月11日（土） 13時30分～16時30分
会 場 藤沢市民会館大ホール
内 容 これまでの活動の振り返り
シティキャスト活動まとめ動画放映
チームFUJISAWA2020の概要説明・登録依頼
シティキャストによる企画発表 ほか
参 加 者 約270人



大会エンブレムの法被を着用して
東京五輪音頭-2020-を披露



イベントの最後に皆で記念撮影

(8) セーリングイメージオブジェ展示

東京2020大会のセーリング競技会場である、本市江の島ヨットハーバーを訪れ、大会を振り返っていただくため、「セーリング」、「波」、「風」をイメージした、藤沢ならではのエレガントなオブジェを江の島ヨットハーバーで展示しました。

夜間は、関東三大イルミネーションである「湘南の宝石」と連携し、江の島ヨットハーバー内のライトアップとともに光で彩りました。なお、本オブジェは、東京2020ライブサイト開催期間中、会場に展示する予定だったもので、藤沢市出身の空間デザイナー長谷川喜美氏がデザインしました。

展示期間 2021年12月23日（木）～2022年2月28日（月）8時～18時

ライトアップ時間：17時～18時

※2021年12月23日（木）～26日（日）は、江の島ヨットハーバーのヨットイルミネーションの期間に合わせ、21時まで展示時間とライトアップ時間を延長

展示場所 江の島ヨットハーバー 休憩棟内



(9) 山田恵里選手による技術指導・講演会

2021年10月1日に制定された藤沢市スポーツ都市宣言の記念事業及びソフトボール競技の更なる普及のため、市内の公立中学校8校（市立7校、私立1校）のソフトボール部選手・指導者を対象として、2008年の北京大会と、今大会の金メダリスト山田恵里選手による技術指導・講演会を開催しました。金メダリストから直接指導を受けた選手たちの中から、未来のオリンピック誕生が期待されます。

日 時 2022年1月8日（土） 13時～16時30分
会 場 藤沢市立湘洋中学校 グラウンド・体育館
参加生徒 90人



(10) シティキャスト交流会

シティキャストフジサワの有志により発案されたことをきっかけとして、同じ地域に住むシティキャスト同士が顔見知りになり、地域であいさつを交わせるような関係性をつくることを目的とした交流会を、片瀬・辻堂・鵜沼の3地区で実施しました。

大会期間中の案内活動中止となったシティキャストメンバー相互の交流が図られ、今後の地域でのボランティア活動につながる、仲間づくりの場となりました。

【片瀬地区交流会】

日 時 2021年10月23日（土）
14時～15時30分
会 場 江の島ヨットハーバー
参加者 15人



【辻堂地区交流会】

日 時 2022年1月16日（日）
14時～16時
会 場 辻堂市民センター
参加者 22人



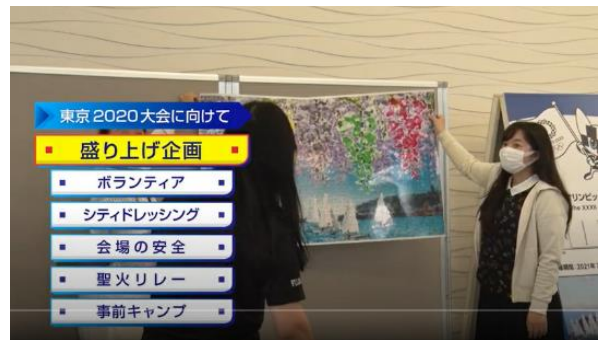
【鵜沼地区交流会】

日 時 2022年1月17日（月）
19時～21時
会 場 鵜沼市民センター
参 加 者 26人



（11）記録映像及び記録集データの公開

東京2020大会の記憶と大会開催関係者の活動記録を後世に残し、伝えていくため、これまで実施してきた気運醸成やボランティア等市民参加の取組、セーリング競技やパラスポーツの普及啓発、国際交流事業など、大会に関連する様々な取組の様相を収めた記録映像（動画）と、写真・資料などをまとめた記録集データ（本データ）を制作し公開しました。



6 大会を終えて

(1) 開催会場自治体として

2015年6月、東京2020オリンピック競技大会セーリング競技の江の島開催の決定を受け、市民参加型の大会実現とレガシーの創出を柱として、「地域と市民が元気になること」を活動目標とする支援方針を掲げました。本市では、この方針に基づき、気運の醸成、セーリング競技の普及啓発、シティキャストフジサワ（藤沢市都市ボランティア）の運営、さらには、誘致活動の末に3か国が事前キャンプを実施するなど、各種事業に取り組んできました。



Junichi Hirai / BULKHEAD magazine JAPAN



このようななか、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、史上初めて大会が1年延期されることとなりました。その後も感染拡大は収まらず、2021年夏に開催された大会においても、本市が主催するライブサイトやシティキャスト、神奈川県における聖火リレーなどの関連イベントの中止や縮小が余儀なくされ、さらには、多くの競技会場と同様にセーリング競技会場となる江の島ヨットハーバーも無観客での開催となりました。

また、新たに感染症対策が必要となるなど、大会運営に際し非常に厳しい状況でありましたが、地元江の島の皆様や支援委員会を始めとした関係団体と連携し、参画・協力をいただくなかで、創意工夫を図り、大会気運の醸成やおもてなしなど市を挙げて取組を進めてきました。

医療や救急、危機管理等の分野においては、新型コロナウイルス感染症対策を始めとした多岐にわたる対策について、神奈川県や庁内関係各課等と連携し、万全を期して臨みました。その結果、安全安心の大会を実現しつつ、盛り上げとおもてなしの両立を図るという、地元自治体としての大きな役割を果たすことができました。

(2) 本市における取組成果とレガシー

1964年大会に続き再び競技会場となった江の島は、120年を超える大会の歴史において、セーリング競技で初めて、同じ会場で2度目のオリンピックが開催された地となりました。57年ぶりに当地で開催された今大会でも、前回大会と同様に白熱のレースが繰り広げられました。

遠く富士を臨み相模湾に佇む緑の江の島の景観は、炎天下のなか連日厳しいレースに挑む世界各国の選手関係者らの心を潤わせ、地元を挙げた江の島ヨット音頭・東京五輪音頭-2020-でのお出迎えなど数々のおもてなしとともに、会場運営全般とあわせて、各国の選手関係者らから感動と称賛の声をいただきました。また、今大会を通じて、空や海から江の島を映し出した映像が国内外に配信され、世界に誇る景勝地江の島を発信するまたとない機会となりました。



Junichi Hirai / BULKHEAD magazine JAPAN



Junichi Hirai / BULKHEAD magazine JAPAN

今大会の実施に当たっては、大会に向けた情報発信と盛り上げの核として、2018年4月に設立した「2020応援団 藤沢ビッグウェーブ」に1万8千人を超える方にご登録いただいたほか、シティキャストフジサワの応募に際し定員の3倍を超えるご応募をいただくなど、多くの市民の皆様は大会に関心を寄せていただくとともに、様々な形で大会に参画していただきました。

【東京2020大会を通じた本市の主な取組成果】

◇市民参加型大会の実現

シティキャストや藤沢ビッグウェーブなどの取組を通じて、多くの市民の皆様ボランティアとして大会に参画していただきました。また、多様な主体による自発的な企画・活動を積極的に支援し、市民参加型の大会を実現しました。

◇スポーツへの意識の向上

江の島で開催されたセーリング競技を始め、オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、スポーツに触れ、親しむ機会を積極的に提供し、生涯スポーツやパラスポーツなど、スポーツを通じた健康づくりなどへの意識の向上が図られ、スポーツ全般に対する気運が高まりました。

◇共生社会の推進

本市は、ポルトガルパラリンピック選手団の事前キャンプ受入れに伴うパラリンピアンとの交流や、パラリンピック開催を契機とした取組などを通じて、障がい者理解を深め、互いを認め合うこと、他者を尊重することの重要性などを学び、大会を通じ多くの気づきを得ることができました。

◇国際交流の推進

国際大会や練習を目的に世界中から本市を訪れたセーリング競技の海外選手や、本市で事前キャンプを実施する3か国（エジプト・エルサルバドル・ポルトガル）の選手関係者らと、子どもたちを始めとする多くの市民の皆様が交流する機会を様々な形で創出し、国際交流の推進とともに国際理解を深めることができました。

◇子どもたちの大会への参画機会の創出

小学校・中学校と連携し、オリンピック・パラリンピアンを講師に招いた講演や、フラワーレーンプロジェクトを始めとする大会関連事業の実施など、次代を担う子どもたちの生涯の思い出に残る体験となるよう、大会に関わる機会の創出を図りました。

◇江の島周辺等における施設・環境整備

大会開催を契機として、江の島島内及び周辺の公衆トイレや観光案内サインの整備、弁天橋の改修、片瀬江ノ島駅前の交通空間（ロータリー）の整備、県立スポーツセンター西側昇降機の整備など、競技会場周辺等の環境整備に取り組み、利便性や安全性の向上を図りました。

【未来に向けたレガシー】

■ ボランティアレガシー「チームFUJISAWA2020」の始動

東京2020大会を契機として、ボランティア活動を一層身近なものとする、ポータルサイトを活用した取組、「チームFUJISAWA2020」を今大会のレガシーとして、2021年10月1日に稼働しました。ボランティアに関する情報を取得しやすい環境を提供することで、本市のボランティア活動が一層盛んになるよう取組を進めてまいります。



■ 「スポーツ都市宣言」の制定

東京2020大会を契機としたスポーツに関する気運と意識の高まりを、レガシーとして未来につなげていくため、2021年10月1日に制定した「スポーツ都市宣言」に基づき、「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」スポーツに親しみ、生涯にわたり健康で豊かなスポーツライフを楽しめるよう取組を進めてまいります。



上記のほか、ハード・ソフトを問わず、多岐にわたる分野において、支援委員会や市民団体、庁内各課等と連携し、数々の取組を進めてきました。

2度のオリンピック開催で得た一体感や経験を生かし、ボランティア及びスポーツ気運の高まりを始めとする今大会の成果・レガシーを着実に次世代に引き継いでいけるよう、今後も取り組んでまいります。

(3) 未来に向けて

今大会の開催は、本市にとって、スポーツや健康に関心を高めていただく好機となりました。大会を契機とした生涯スポーツやパラスポーツに関する気運の高まりを受け、「藤沢市スポーツ都市宣言」の制定を始め、障がい者のスポーツ環境の構築等を目的に「藤沢市障がい者スポーツ連絡協議会」を設立したほか、市内スポーツ関連の6団体による「藤沢市スポーツ連盟」が新たに組織されました。また、セーリングの普及啓発事業とともに、パラスポーツフェスタやボッチャ競技大会など、誰もが参加できるスポーツの機会の充実に努め、オリンピック・パラリンピックの開催をきっかけに、多くのスポーツ関連施策・事業の推進が図られました。

大会を契機としたスポーツ気運の盛り上がりとともに、市民一人ひとりが「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」スポーツに親しみ、生涯にわたり健康で豊かなスポーツライフを楽しめるようにとの「藤沢市スポーツ都市宣言」の理念を、後世につないでいけるよう、着実に取り組んでまいります。

東京2020大会は、オリンピック・パラリンピックの基本理念である「人権尊重と平和の実現」のもと、「多様性と調和」をコンセプトの一つとして開催されました。コロナ禍で開催された今大会ではありましたが、様々な市民参加の取組や交流事業を通じて、多くの市民の皆様が喜びや感動を分かち合い、人の和やマルチパートナーシップを深めるなど、多様性を認め合い、共生社会を推進するまたとない機会ともなりました。

本市の市民活動は、前回、1964年の東京オリンピックをきっかけに活発化された歴史があります。新型コロナウイルスの感染が拡大する困難な状況のなか、今大会でも、多くの市民の皆様が藤沢市のためにと立ち上がり、大会成功のために力を貸してくださいました。自主的な活動も数多く企画・実施され、これら今大会に関わっていただいた多くの皆様は、活動を通じて藤沢への愛着と誇りを一層深めていただけたものと思っております。今大会を通じて培った市民力・地域力、さらには、チームFUJISAWA2020、スポーツ都市宣言を始め、今大会で創られた数々の成果・レガシーを、藤沢の輝かしい未来へ向けた新たな活力として、次世代へ、その先の未来へと着実に引き継いでいけるよう、しっかりと取り組んでまいります。

